

のろしだいあと
「烽火台跡」 町指定（史跡）

所在地：大字上平字出浦 2506 所有者：上平区 指定：昭和 61 年 1 月 4 日

坂城町上平区と千曲市との境界の円錐状の自在山（岩井堂山、標高 793m）にあつて、古くから「のろし台」とか、地名を冠して「出浦城」などと呼ばれてきました。

本郭は回字形で、周囲に土塁をめぐらしており、その規模は東西 12m、南北 27mのほぼ長方形をしています。土塁の高さは 1.4mほどですが、その幅は場所によって異なり、土塁敷は 3～6 mです。本郭内は平坦で、雨水をたくわえたと思われる石積みの井戸跡が 2 箇所残存しています。

本郭の北に浅い堀切を隔てて、高さ 2 mほどの一文字の土塁が残り、その北に半円形の郭があります。これら二郭の西裾に、本郭からの深さ 6 mほどの空堀がめぐっていて、さらに北西に段郭が 2 個ならんでいます。

これらの諸施設から、西側にかなり下がった所に半円形の郭があつて、その先は深さ 8 mの堀切となつて地山を断ち切っています。

この烽火台の築城時期は明らかではありませんが、戦国時代ごろと思われます。

